

【報道関係各位】

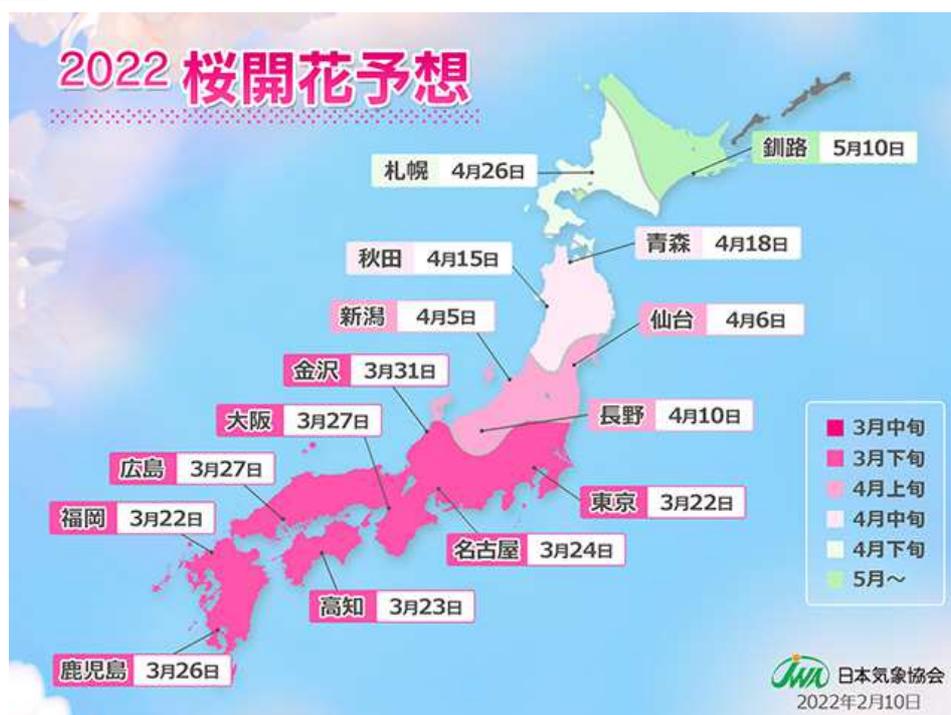
2022年2月10日
一般財団法人 日本気象協会

2022年桜開花予想（第2回）

開花は広い範囲で平年並み 東京は3月22日で全国トップ

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：長田 太、以下「日本気象協会」）は、日本全国49地点の桜の開花予想（第2回）を、2022年2月10日（木）に発表します。

開花予想前線図



開花予想日(主な地点)

	地点	開花予想日	開花予想傾向	平年開花日	昨年(2021年)開花日
鹿児島県	鹿児島市	3月26日	平年並	3月26日	3月17日
福岡県	福岡市	3月22日	平年並	3月22日	3月12日
高知県	高知市	3月23日	平年並	3月22日	3月15日
広島県	広島市	3月27日	平年並	3月25日	3月11日
大阪府	大阪市	3月27日	平年並	3月27日	3月19日
愛知県	名古屋市	3月24日	平年並	3月24日	3月17日
東京都	千代田区	3月22日	平年並	3月24日	3月14日
長野県	長野市	4月10日	平年並	4月11日	3月29日
新潟県	新潟市	4月5日	早い	4月8日	3月29日
石川県	金沢市	3月31日	早い	4月3日	3月23日
宮城県	仙台市	4月6日	平年並	4月8日	3月28日
秋田県	秋田市	4月15日	平年並	4月17日	4月4日
青森県	青森市	4月18日	早い	4月22日	4月13日
北海道	札幌市	4月26日	早い	5月1日	4月22日
北海道	釧路市※	5月10日	早い	5月16日	5月8日

※エゾヤマザクラ



開花の傾向

2022年の桜の開花は、西日本から関東で平年並みのところが多いですが、北陸と東北の一部、北海道では、平年より早く開花する見込みです。

昨年(2021年)は、気象官署では全国で一番早く開花した広島をはじめ、福岡、長崎、大阪など、多くの地点で最早記録を更新しました。そのため、昨年と比較すると、10日前後遅くなる地点が多くなるでしょう。広島では、2021年は3月11日に開花しましたが、今年は2週間以上遅くなる見込みです。

桜の開花は、3月22日に東京、福岡、熊本からスタートするでしょう。23日には大分、高知、横浜、24日には長崎や名古屋などで開花する見込みです。3月末までには、西日本から関東、北陸までの広い範囲で開花となるでしょう。新潟や長野、東北では4月上旬から中旬に開花するところが多くなりそうです。4月下旬には、桜前線は北海道へ到着し、4月25日に函館で開花するでしょう。

この冬(12月～1月)は、たびたび強い寒気が流れ込み、2022年のスタートは年越し寒波の影響を受け、全国的に厳しい寒さとなりました。1月6日には関東で4年ぶり、21日には京都で5年ぶりとなる大雪に見舞われました。全国的に厳しい寒さの日も多く、桜の花芽の休眠打破^{*}は順調に行われたとみられます。

2月に入っても全国的に寒さは続いています。2月下旬以降は東日本と北日本で気温が平年並みか高くなるため、春の訪れも平年並みか早くなるでしょう。

※休眠打破:前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること

全49地点の桜の開花予想日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp(てんきじえーぴー)』桜の開花予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

【言葉の説明】

平年:1991～2020年の平均値

かなり早い	:平年よりも7日以上早い
早い	:平年よりも3日から6日早い
平年並	:平年との差が2日以内
遅い	:平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	:平年よりも7日以上遅い

以 上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1: 桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1: 以下の日程を予定しています。1月、2月中は開花予想日のみを発表し、3月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

第1回 1月27日(木)	第2回 2月10日(木)	第3回 2月24日(木)	第4回 3月3日(木)
第5回 3月10日(木)	第6回 3月17日(木)	第7回 3月24日(木)	第8回 3月31日(木)
第9回 4月14日(木)	第10回 4月28日(木)		

Q2: 開花日・満開日の基準は？

A2: 気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5~6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3: 予想する地点数は？

A3: 1月、2月中は49地点、3月以降は全国で89地点の予想を発表します。予想地点89地点は、各地気象台が観測する標本木53地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる36地点となります。

Q4: 日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4: 花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は2007年から桜の開花予想を実施しており、今年で16年目の取り組みです。

Q5: 開花予想に使うデータは？

A5: 以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。